

# 論点整理（目指したい姿）

## 1 前回出された意見

(1) 学校部活動の目的と地域移行後の活動の目的のちがいについて

ア スポーツ少年団としては、これまでのスタンスでの指導は可能だが、部活動の移行の受け皿という筋が違うように思う。

イ 地域移行に当たっては、普及と強化を分けて設置するのが理想

(2) 地域への移行（展開）の流れについて

ア 休日の移行後、段階的に平日の移行をしていくとあるが、休日と平日の活動の目的が異なることで子どもたちが混乱するのではないか。

イ 長野市や松本市のように、平日休日ともに同時移行とした方が良いのではないか。

ウ 部活動がいずれなくなるなら、早くやめて次の方針へ進んだ方が良いのではないか。

## 2 本日のテーマ

(1) 地域移行後の上田市が求める活動のあり方

ア 国の方針

(ア) 中学校部活動が今後地域移行（廃止）となります。

【休日⇒国：R7年度末、県：R8年度末、平日⇒国：R13年度末（予定）】

(イ) 中学生が部活動として、学校で行っている活動が出来なくなります。

国の方針とは言え、大変申し訳ないことですが、中学生が参加したい、参加出来る場を皆さんと一緒に考え作っていきたい。

イ 児童生徒の実状

(ア) 加入率は減少傾向にありますが、市内中学生の4人に3人（R4年度）が部活動に加入しています。

(イ) 小学校5・6年生の約6割（R5市教委調査）が中学校進学後、部活動に入りたいと希望しています。

また、現在の部活動にない活動を約2割が希望しています。（上位3位：バドミントン、ダンス、バンド）

ウ 地域移行の目的

(ア) 地域で学校の部活動を行うのではなく、部活動がなくなることにより、地域や学校でスポーツ・文化を体験し、生涯にわたって続けていける環境をどう作るかを、一緒に考えて欲しい。

(イ) 現在の学校部活動種目を残すことに限定するのではなく、部活動にない活動にも参加することを促したい。

上田市が目指したい姿

生徒の思いに沿った環境づくり《中学生の『やってみたい』を地域で紡ぐ》

## ○グループ1(もっとうまく、もっと強く、上の大会に出場したい) ⇒ 競技・技術力向上志向

① 既存活動団体がある種目 ⇒ 団体の活動に参加

※ 既存活動団体=競技団体、総合型スポーツクラブ、スポーツ少年団、民間スポーツクラブ、個人塾等

② 既存活動団体がない種目、既存活動団体はあるが参加ハードルが高い種目 ⇒ **新たな活動場所を創出**

※ **新たな活動場所のタイプ(別紙参照)**

**A: 学校部活動の存続型**

どのタイプを求めていくか

この部分を考えていきたい

**B: 転換型(学校単位部活動をそのままクラブ・保護者会等の運営に転換)**

**C: 展開型(複数の中学校生徒が参加できる新たな組織を立ち上げ、既存活動団体が指導者を派遣)**

## ○グループ2(いろいろな活動を楽しみたい、友人と楽しく活動したい) ⇒ 競技・技術力普及志向

・既存活動団体の活動に参加

## ○グループ3(ゆっくり過ごしたい、休んでいたい)

・生徒が参加したいときに、参加できる既存活動団体を紹介

### (2) 地域への移行(展開)の流れ

ア 国、県は休日、平日を分けて移行を推進するが、**上田市は休日、平日の移行を一体的に進める。**

イ 令和6年度を「制度設計期」、令和7年度を「展開準備期」、令和8年度を「展開推進期」とし、

**令和8年度末を目途に、部活動が地域クラブ活動へ展開することを目指して取組を進めていく。**

ウ なお、**展開時期は一律に適用するのではなく、運動系、文化系などの種目や地域の実情に応じて弾力的に進めることとする。**

エ 展開期間中は、学校部活動と新たな活動場所が併存することはやむを得ない。

### 3 今後の議題(残されている論点について)

(1) 新たな活動場所の創出に向けては、様々な課題があります。

具体的には、①新たな活動団体の運営主体、②運営に要する費用、③指導者確保と諸条件について

④受益者負担のあり方、⑤移動手段、⑥活動場所などが考えられます。

(2) 令和7年度に、上田市地域クラブ活動推進協議会の下部組織として部会(運動系、文化系など)を設け、課題に対する論点整理をしていくこととします。

(3) 本協議会としては、各部会からの報告を受け、全体の方針を決定していくこととします。

## 部活動地域展開の構想

### 令和9年度以降の部活動の地域展開

